

焼香ってどうしてするの？

お葬式に参列すると当然のようにお焼香を行います。そもそもお焼香はなぜ行われ、どのような意味があるのでしょうか。

「焼香」とは仏式の葬儀や法事などの儀式において、お香を焚くことをさします。焼香に使用するお香には、「抹香」と「線香」があり、抹香は炭の上で燃やし、線香には直接火をつけます。儀式においては抹香を使用することが多いので、「焼香」という言葉自体が「抹香をあげる」ことを意味し、線香を使用する場合は「線香をあげる」というように使い分けがあります。

仏教ではお香の香りは、その空間隅々まで行き渡ることから、仏の慈悲が誰彼の区別なく与えられることをあらわしていると言われてます。そして、その香りがお参りする人の心身を清め、心を落ち着かせます。また、お亡くなりになられた方が極楽浄土に生まれ変わるまでの四十九日間を中陰と言いますが、この期間の線香は「食香(じきこう)」といって、仏様は線香の香りをお召し上がりになります。このことから昔の人々は四十九日間、交代で線香を絶やさないようにしていたそうです。このように、死者を弔うために行う焼香は、そのお香の香りで邪気を祓い、霊前を清め、冥福を祈るという気持ちが込められているのです。

お焼香は厳密には宗派によって回数や作法に違いがあります。

宗派	ご焼香回数	宗派	ご焼香回数
浄土真宗 本願寺派	1回 押しただかない	日蓮宗	押しただいて1回または3回
真宗大谷派	2回 押しただかない	日蓮正宗	押しただいて3回
真宗高田派	3回 押しただかない	真言宗	押しただいて3回
曹洞宗	2回 (1回目は押しただき、 2回目は押しただかない)	臨済宗	1回 (押しただく、いただかない の定めはない)
浄土宗	特に定めはなし	天台宗	1回または3回 特に定めはなし

※「押しただく」とは…つまんだ抹香を額の高さまでかかげること。

七五三の豆知識

七五三とは、子どもの健やかな成長を祝う行事です。乳児の生存率がとても低かった昔は、3歳まで子どもが生き延びるのは大変なことで、7歳までは子どもは人間ではなく、神の子という認識を抱いていました。3歳の髪を伸ばしはじめる「髪置き」、5歳のはじめて袴を身に着ける「袴着」、7歳の帯を使い始める「帯解き」の儀式が元となり、七五三の行事が定着しました。一般的には、男の子は3歳と5歳、女の子は3歳と7歳にあたる年の11月15日に神社や氏神にお参りをしますが、現在では特に日にちにこだわりはなくなってきました。また、数え年と満年齢どちらにすればいいのか悩まれる方もいるかもしれませんが、兄弟がいれば上の子は満年齢、下の子は数え年でまとめて行う…というようにそれぞれのご家庭に合わせてお祝いされて大丈夫です。着物や袴でおめかしされたお子様の表情を、記念写真に残すのも大切な思い出になりますよね。三重平安閣では専属のカメラマンによる撮影プランもご用意しております。詳しくは45・46ページをご覧ください。